

## 強者の国語・〔現代文・問題編〕

一橋大学の過去問（二〇一八年）で、かつては京大でも毎年出題されていた「近代文語文」です。近代文語文は「現代文十漢文」の実力を試すのに有効なので、一橋大学志望以外の皆さんもぜひチャレンジしてみてください！（目安…30分程度）

次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

一たとへ小なる試験に合格せざるとて、何ぞ直ちに失望すべきことか之れ有らん。自己の能力遙かに他に超越せるに、試験に応ずるに及びて不幸他に一著を輸すとして自ら怨ずるは、是れ謬妄の甚しきもの、他の合格して我れ独り能はざるは、其の地位に必要とする技倆の他に比して劣れるに因る。若し自己の能力更に大に他に超越せるを信ずる、須らく更に大なる事業を經營し一層崇高なる地位を占むるに努むべし。自ら偉大の能力あるを信じて、依然小事に齷齪し卑官を求むるに汲々たるは、身を処するの道を知らざるなり。将た又た雋才異能ありて、更に偉大の事業を遂行するに堪ふるにせよ、唯だ漠然之れ有るべきを恃みとして空しく其の時の到来を待つも亦た同じく身を処するの道を知らざるなり。蓋し人として世に立つ、何れの時何れの処にても常に其の為し得べきの事を為さざる可らず。時来れば之を成すべく、而して時来らざる、猶ほ必ず為す所あるを要す。或は機熟せざるが故に為さずとし、地位高からざるが故に為さずとする、人たるの分を疎略にする者と謂ふべし。之を総ぶるに、人の能不能は試験に因りて充分に判定する能はず。他も之を知るに難んじ、己れ亦た知ること難し。唯だ各自に其の職分を守り、孜孜之を履行するの外ある無し。乃ち小なる試験に適するあるべく、又大なる試験に適するあるべく、或は常に失敗に終ることあるべく、又た意外に成功し得ることあるべけんが、苟も人として守るべき所を守り、為すべき所を為しつつある、成敗利鈍は固より憂ふるに足らざるなり。初め小学に在る、専ら自己の知識を開発するを旨とし、而して試験ありて一種の難関を作す。進みて中学に入る、又た専ら自己の知識を開発するを旨とし、而して亦た試験

# 強者の戦略

ありて一種の難関を作す。爾来常に自己の知識を養ふに専らに、而して又た必らず直接間接の試験あり。然るに其の試験の行はるる時、応じて発露する知識の量や極めて尠少、僅に識る所の一小部分に就て試験さるるに止まる。其の専門学を習修し、業卒へて官庁に入るに方りても、職務に応用する所は亦た極めて僅少の部分に過ぎず。概して他人と関係の際に用ゐる知識の量は、比較的甚だ少し。但だ他と関係の際に用ゐる知識の量は、実に僅かの部分なりと雖も、其の用ゐられざる所の多量のもの必ず無用なるを謂ふべからず。蘊蓄する所の多ければ、其の多きだけ人として進歩せりと為すべく、之を用ゐるべき場合あると否とは全く別事に属す。或は之れ有るやも測られず、又た之れ無きやも保し難し。若し之れ有るかの如くに信じ、空しく其の到らざるを啣つは、愚の至りとせざる能はず。二謂ゆる人事を尽くして天命を待つとは、如何の時如何の処にも適用すべきものたるを忘るべからず。

——三宅雪嶺「試験を論じ運命に及ぶ」

問い一 傍線一「たとへ小なる試験に合格せざるとて、何ぞ直ちに失望すべきことか之れ有らん。」を現代語に訳しなさい。

問い二 傍線二「謂ゆる人事を尽くして天命を待つとは、如何の時如何の処にも適用すべきものたるを忘るべからず。」とあるが、筆者がこの一文で言いたいのはどういうことか。文章全体をふまえて答えなさい（六〇字以内）。

問い三 筆者は試験をどのようなものと考えているか。文章全体をふまえて答えなさい（五〇字以内）。

# 強者の戦略

## 〈解答〉

問い一 仮につまらない試験に合格しないからといって、どうしてすぐに失望しなければならないことがあるのか、いや失望する必要はない。

問い二 試験や事業の成否は機会に左右され、実際に用いる知識は部分的だが、人としての進歩するため常に勉学に励むべきだといふこと。

問い三 人間の能力を完全に測ることはできないが、各人が蓄えている知識の程度を測るための試験。

## 〈解説〉

問い一 傍線一「たとへ小なる試験に合格せざるとて、何ぞ直ちに失望すべきことか之れ有らん。」を現代語に訳しなさい。

傍線部を素直に直訳すればよい。「小なる試験」は「小さな試験」ではやや意味が取りづらいため「つまらない試験」、「之れ」は述語の直前にある強調の副詞であるため訳さない、「有らん」を反語として明示することなどに注意しよう。

問い二 傍線二「謂ゆる人事を尽くして天命を待つとは、如何の時如何の処にも適用すべきものたるを忘るべからず。」とあるが、筆者がこの一文で言いたいのはどういうことか。文章全体をふまえて答えなさい（六〇字以内）。

「人事を尽くして」とは「人間の能力で可能な限りの努力をしたら、あとは結果を天の意思に任せる」こと。ここでは「人事」とは「勉学に励む」ことであるため、傍線部の内容は「常に勉学に励むべきだ」となる。また「天の意思に」とは試験や事業の成否が運に左右されることだが、本文の「小なる試験に」成敗利鈍は固より憂ふるに足らざる「但だ他とく謂ふべからず」から「試験や事業の成否は機会に左右され」「用いる知識は部分的」とまとめる。これに勉学の理由である「人間としての進歩」を加えて字数以内に調整しよう。

# 強者の戦略

問い三 筆者は試験をどのようなものと考えているか。文章全体をふまえて答えなさい（五〇字以内）。

本文の「之を総ぶるに」と「初め小学く試験さるるに止まる」の内容をまとめる。字数に余裕があれば「成否を気にしすぎる必要はない」という要素も加えたいが、問い一・二で既に言及している内容であるため、今回は解答に含めずともよい。

## ○全訳

仮につまらない試験に合格しないからといって、どうしてすぐに失望しなければならないことがあるのか、いや失望する必要はない。自分の能力が遥かに他の者に超越しているのに、試験を受けるにあたって不幸にも他の者に一段劣ったとして自らを恨むのは、誤りの甚だしいものであり、他の者が合格して自分ひとり合格できないのは、その地位に必要とされる技量が他の者と比べて劣っていることによる。もし自分の能力が更に大いに他の者に超越していることを信じるならば、必ず更に大きな事業を営んで一層崇高な地位を占めることに努めるべきだ。自ら偉大な能力があることを信じて、依然としてつまらないことにあくせくして低い官職を求めることにならざるものは、自らの身の処し方を知らないのである。またすぐれた才能や他にない能力があつて、更に偉大な事業を遂行することに堪えられるとしても、ただ漠然とその能力があるに違いないことを頼みに思つて空しく能力を発揮する時の到来を待つのも、また同じく自らの身の処し方を知らないのである。思うに人として世に立つならば、どんな時、どんな場合においても常に自分ができることをせねばならない。時が来ればこれをなすことができるように、そして時が来ないならば、やはり必ずすべきことが必要である。もし「機会が熟していないためにしない」、「地位が高くないためにしない」というのは、人としての分限を粗略にする者というべきである。これをまとめると、人が有能であるか無能であるかは試験によって十分に判定することはできない。他人も能力があるかどうかを知ることが難しく、自分でもまた知ることが難しい。ただ各自にその職分を守り、熱心にその職分を履行する他はない。すなわちつまらない試験に適することもあるだろうし、また大きな試験に適することもあるだろうし、或いは常に失敗に終わることもあるだろうし、また意外にも成功することができることもあるだろうが、もし人として守るべきことを守り、為すべきことを為しつつあるならば、成功失敗や上手下手はもとより心配する必要はないのである。はじめ小学校にいて、自分の知識を広げ深めることに専心し、その上で試験

# 強者の戦略

があつて一種の関門となる。進んで中学校に入り、また自己の知識を広げ深めることに専心し、その上でまた試験があつて一種の関門となる。それ以降常に自分の知識を養うことに専心し、そしてまた必ず直接間接の試験がある。そしてその試験が行われる時、試験に  
応じて發揮する知識の量は極めて少なく、ただ知っていることの一部分について試験されるにとどまる。その専門の学問を習得し、学  
業を終えて官庁に入るにあたつても、職務に応用するものはまた極めて僅かな部分に過ぎない。概して他人と関係する際に用いる知識  
の量は、他と比べて甚だ少ない。ただ他人と関係する際に用いる知識の量は、実に僅かな部分であるといつても、その用いられないも  
のが多量であることが必ずしも無用であるといふことはできない。蓄えた知識が多ければ、それが多い分だけ人として進歩していると  
思うべきであり、実際に用いる場合があるかどうかとは全く別件である。或いは知識があつても測られず、また知識が無くてもそれを  
確認することはできない。もし知識があるかのように信じ、空しく実際に用いる場面がやつてこないことを嘆くのは、愚の骨頂といわ  
ざるをえない。いわゆる人事を尽くして天命を待つというのは、どんな時、どんな場合においても適用すべきものであることを忘れて  
はならない。